

朝の「RSタイム」のススメ

今年度から、朝の活動の時間(8:05-8:15)を「RSタイム」として、教科書をフル活用して、みなさんの学力向上につなげていこうと思います。では、「RSタイム」をどう活用すればよいのか、理科を例にみていきましょう！

Step.1 教科書で復習 まずは、昨日学習した内容を教科書で振り返りましょう！

実験から

炭酸水素ナトリウムを 熱すると、気体と 液体が 発生した。この気体を 石灰水に 通すと、 白く にごった。ことから、発生した 気体は 二酸化炭素で ある。ことが わかる。また、発生した 液体に 塩化コバルト紙を つけると、(図2)のように 青色から 桃色に 変化した。ことから、発生した 液体は 水である。ことが わかる。また、(図3) から、試験管に 残った 白い 物質は、炭酸水素ナトリウムとは ちがう 物質であると 考えられる。この物質は、炭酸ナトリウムと いう。

炭酸水素ナトリウム → 炭酸ナトリウム + 二酸化炭素 + 水

昨日の実験では、白い粉を加熱したら気体と液体が発生したな。気体を石灰水に通したら白く濁ったな。炭酸水素ナトリウムは加熱すると炭酸ナトリウムと二酸化炭素と水になったんだな。

Step.2 教科書で予習 次に、今日学習する予定のページを教科書で予習しましょう！

実験の方法

炭酸水素ナトリウムを 加熱する

① かたいた、試験管に 炭酸水素ナトリウム、約2gを 入れ、傾斜で 加熱する。

② 立てた、試験管を 1/3の 試験管に 入れ、傾斜で 加熱する。 加熱中に、試験管の 口を 手で 押さえる。 加熱が 終わったら、試験管の 口を 手で 押さえる。 加熱が 終わったら、試験管の 口を 手で 押さえる。

炭酸水素ナトリウムを 加熱する

① かたいた、試験管に 炭酸水素ナトリウム、約2gを 入れ、傾斜で 加熱する。

② 立てた、試験管を 1/3の 試験管に 入れ、傾斜で 加熱する。 加熱中に、試験管の 口を 手で 押さえる。 加熱が 終わったら、試験管の 口を 手で 押さえる。 加熱が 終わったら、試験管の 口を 手で 押さえる。

今日の実験ではガスバーナーを使うのか！どうやって火をつけるんだっけ？ 加熱した時にた液体が試験管の底につくと、試験管が割れてしまうのか！気をつけないといけないな！

Step.3 RSの視点で教科書を読み直す 最後に、「RSの視点」を用いて、解像度高く読んでみましょう！

酸化銀を 熱すると、酸素が 発生して、白い 固体の 物質が 残る。

この 白い 固体の 物質は、かたい 物で たたくと 板の ように うすく 広がり、みがくと 表面が 銀色に 光る(金属光沢)。また、 電気を よく 通す。このことから、白い 固体の 物質は、金属である ことが わかる。

この 白い 固体の 物質は、銀であり、酸化銀は 熱すると、銀と 酸素に 分かれる。

Ooogggggggp

「この」が指し示しているのは、 「酸化銀を熱して酸素が発生した後の白い固体 だな」【照応解決】

目安は、
5分間 復習 (Step1)
1分間 予習 (Step2)
3分間 精読 (Step3)
これはあくまでも1つの例です。
自分のペースに合わせて
教科書を読みましょう！